

皆様おはようございます。10月も半ばに入りました。今日は有名な聖書の箇所である、神は愛である、神は愛なり、と言うその聖書箇所が開かれております。この御言葉から味わってまいりたく願います。

愛する者たちと言う呼びかけが2度あります。

今日のこの聖書の箇所を書いたのは主の弟子であるヨハネです。ヨハネの手紙は愛の書簡と呼ばれていますが、彼は兄弟ヤコブとともに雷の子とイエス様からあだ名をつけられる人たちでした。

ヨハネはもともとは愛の人とは程遠い存在であったように思います。

弟子たちの間で自分たちのうち誰が1番偉いかと言う議論が起こり、兄弟であるヤコブとヨハネは、お母さんに頼んで、イエス様に頼み込み、イエス様の右と左の座に着かせてくださいと言ったものでした。

またルカ9章にはこういうやり取りがありました。

9:49 そこで、ヨハネが言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちと一緒にあなたに従わないので、やめさせようと思いました。」

9:50 イエスは言われた。「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである。」

このように、ヨハネは主の弟子だということで偉そうにして、権威風を吹かせ凍てたことが分かります。

またサマリア人の村に入った時、同じくルカ9章ですけども、このようなやり取りがありました。

9:51 イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。

9:52 そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。

9:53 しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。

9:54 弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。

9:55 イエスは振り向いて二人を戒められた。

まさに自分が自分ごと、他を押しつけたり、その自分の権威を振りかざしたり、神様に従わない者達に焼き滅ぼすという、もの凄く激しい人であったということが分かります。そのような人が、このような愛の書簡を書く人となりました。それはイエス様の深い深い愛に心底であったからです。

愛する者たちよと彼は語りかけます。

4:7 愛する者たち、互いに愛し合いましょ。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。

愛は神から出ている。愛する者は皆、神から生まれている。これが彼の結論です。

1 1 節わたしたちも互いに愛し合うべきです。

1 2 節わたしたちが互いに愛し合うならば、

8 節愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

「神は愛なり」との聖書の有名な個所は、「愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。」との文脈で書かれていることに少し驚きます。これは神は愛だからよかったね、安心だね、という意味ではなくて、神は愛だから、愛さない者は神を知らないし、神と関係ない者だと切り捨てるようなニュアンスがあるからです。

ここに、条件や命令がたくさん書いてあり、こうでなければ神を信じるものとしてふさわしくないと受け取られ、厳しくも窮屈な気がいたします。「神は愛なり」とは、そういう厳しい神様の御言葉だったのでしょか。

いいえ、神様は私たちの愛の応答を求めておられる前に、先んじて、大きな大きな、壮大な愛を示してくださいました。

4:9 神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。

ここに、神様の愛をまず示してくださいました。それは独り子を世にお遣わし下さった、与えて下さった恵みとしてです。ここに神の愛が示されています。遣わされたといっても、天下りとして立派な椅子に座るために遣わされた訳ではありません。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。

私たちが愛したなどというはるか前に、神様が私たちが愛して、私たちの罪を償ういけにえとしての御子をお遣わしになられたのです。ここに愛があるので。私たちの罪を取り除くために神様は何ら義務を折ってはおられません。し

かし、わたくしたちのために身代わりとなり、むごたらしい、凄惨な十字架の死を遂げてまで、私たちを助け出してくださった、ここに愛があります。

この大きな巨大な愛が私たちの前にあるのだから、私たちはその方を知るようになり、そして信じるようになったのだから、大変な事をして頂いているのだから、私たちは互いに愛し合う事は当然ではないかという風に語られています。

4:7 愛する者たち、互いに愛し合しましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。

神様から生まれているのだから。神様を知っているのだから。神様から聖霊によって新たに生まれているのだから、私たちには愛の実行が出来ると励まされます。

神様から生まれ、神を知っているんだから私たちは神を愛することができるよとヨハネは語っています。彼は元々激しい人でした。冷徹な人でした。人を押しつける人でした。しかしこの神様を知るようになってから神様からの出る愛の源泉を深く見つめてから彼は愛に生きることができるようになりました。

4:9 神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

わたしたちを生きるようにして下さったのです。生き生きと、人として生き生きと生きていけるように、神様は御子によって救って下さいました。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

4:11 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。

「ここに愛があ」り、「神はこのように」私たちを愛して下さいました。主は愛する一人子を生贄にしてくださり、貧乏くじを引いて、踏み台となられ、尻拭いをして下さいました。ここに愛があると言う事ですね。」愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。」とヨハネは語ります。

愛する者たち。神がこのように私たちを愛されたのですか私たちも互いに愛し合うべきです。愛することができますよね。神から生まれ神を知っているそして愛は神から出ているのですから。私たちの中から出ているではありません。神様が皆授けて下さるのです。私たちの神様から出る愛を受けて進んでいけばいいんですよとヨハネはそう語っているわけですね。

4:12 神を見た者は、まだひとりもいない。もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。

1 ペテロ 1:8 あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。

1:9 それは、あなたがたが信仰の實りとして魂の救いを受けているからです。

いまだかつて神を見た者はいません。しかし神様はイエス様を遣わしてくださいました。イエス様は私たちを愛し、私たちのために罪の償いの生贄として遣わされ、そして従順にその役割を果たしてくださいました。愛の言葉を語り、奇跡を行って波風を嵐を凧とし、羊飼いと進んでくださった方を私たち愛しています。

今見なくても信じています。言葉では言い尽くせない素晴らしい喜びに満ち溢れています。魂の救いを受けています。

そして私たちが互いに愛し合うこと望むようになった、ここに魂の救いがあるのです。このような神様を知ったのならばどうして私たちが愛することのない状態にとどまることができるのでしょうか。私たちが神を知っていて、神から生まれて、魂に救いを頂いているのです。神は愛でいらっしゃるから、その方に感謝を捧げる信仰を捧げる私たちが、どのように愛を実践して生きるかと言う事は明白です。誰から強制されるでも、命令されるのではなく、私たちが互いに愛し合うなら神様は私たちのうちにとどまってくださいます。私たちは神の家です。

神の愛は私たちのうちで全うされています。神様が大きな大きな愛をまず私に示して下さい、私たち下さったその命の、愛のスタートの上にある私たちの生活があります。

今週もここに神の愛がこのように愛して下さった方を見上げながら私たちもまた神から生まれ神を知っているものとされたことを恵みを感謝しながら愛である神様の御前に、愛をもって進ませてもらいたいと思います。
それがまさしく私たちの喜びである、そのように今思うことが出来る事は幸いです。聖霊によって生まれさせていただいていることに心から感謝したいと思います。